NIKKEI

日経スマートクリップ INTERVIEW

クリッピングサービスで全国にいる技術者同士の情報共有を効率化

名神高速や首都高速をはじめとした全国の道路舗装を請負うほか、新国立競技場などの建設も手がけている株式会社NIPPO。この度、建設業界の最新情報と動向をスピーディーに収集し、新しい技術の研究と開発につなげるため、日経スマートクリップplusを導入した。導入後は社内でのリアルタイムな情報共有の実現に加え、技術者同士のコミュニケーション向上にも効果が見られたという。

株式会社NIPPO／事業内容：道路をはじめとした工事の請負・調査・設計・監理・コンサルタント業務、アスファルト合材等の製造、不動産取引業務、公共施設等の企画・建設・保有・運営など

株式会社 NIPPO 様

技術本部 技術企画室 技術管理グループ

技術管理課長　村上　浩氏

研究企画担当課長　石垣　勉氏

係長　大西 啓之氏

導入サービス：日経スマートクリップplus

導入のきっかけ

全国の技術員へ効率的に正確な情報を届ける手段を模索。日経スマートクリップplusの採用で、著作権法を遵守した記事全文の配信を実現！

1907年創業の株式会社 NIPPOは、日本初の本格的なアスファルト舗装を手がけた道路舗装業界のパイオニアだ※。昭和初期には自社の研究所を開設し、独自の特殊工法を開発することで様々な“日本初”を成し遂げてきた。例えば、アスファルト舗装の機械施工を日本で初めて採用したほか、1963年に開通した「名神高速道路」の建設も、高速道路の建設としては日本初だ。さらに、関西国際空港や横浜ベイブリッジの建設にも携わるなど、日本

のインフラ整備を牽引。現在では、住宅や公共施設の建設事業や不動産事業も展開しており、新国立競技場の建設も手がけている。

パイオニアであり続けるために、業界全体の動向や最新の技術に関する情報には常にアンテナを張っているという。それを取りまとめるのが、技術企画室のメンバーだ。日経スマートクリップ plus を採用した経緯を技術企画室の村上浩氏、石垣勉氏、大西啓之氏が語ってくれた。「弊社には広報部がなく、技術企画室が技術員や経営層向けに情報収集と発信、広報活動を行っています。従来は交代制の担当者が朝 7 時前に出社して関係記事をピックアップし、1、2 時間かけて担当者がまとめたものを経営層や全国の支店へメールで送信していました。毎朝新聞をチェックする経営層が朝 9 時には記事を読み終わって通常業務に取りかかれるように、午前 8 時半には配信を完了させる段取りです」と大西氏。しかし、早朝業務を行う担当者への負担が大きいうえ、担当者のまとめ方次第でもともとの記事の内容を適切に伝えられない恐れもあることから、このような配信作業を見直すことになったという。「従来私たちが作っていた関係記事のまとめでは、その内容全てを伝えきれていた訳ではないため、様々な部署から記事の全文が見たいという問い合わせを受けることがありました。記事の全てを共有することができれば、我々の業務も効率化できます。しかし、著作権を考えると元の記事をそのままコピーして配信することはできません。そういった状況の中で、法律的に問題のない情報サービスがないか探していたところ、日経スマートクリップ plus にたどり着いたのです」と話す。

技術管理グループ係長 大西啓之氏

新聞記事という信用度の高い情報を、著作権を遵守した形で原文のまま共有でき、朝 7 時台に自動配信が行われる点に魅力を感じたという石垣氏。しかし、導入にあたっては事前に本番環境と同様の条件でサービスを利用できるトライアルから始めたそうだ。「最初はキーワードを選んだだけで本当に必要な記事が収集できるのかどうかを不安視する声があったため、トライアルから開始しました。実際に使ってみるとしっかりと必要な記事が網羅されていて、不安は払拭されました。また、その実績によって経営層の説得もスムーズに進みました。導入から 1 年が経ちますが、情報に敏感な経営層にも足りない記事を指摘されたことは一度もありません」。

※前身である「中外アスファルト」として仙台で創業

総合技術センターと若手技術者

導入後の効果

クリッピング作業が効率化され、共有情報の過不足も解消。離れた場所にいる技術員同士も情報が交換しやすくなり、コミュニケーションがスムーズに。

日経スマートクリップ plus を導入した後、特に効果が見られたのは、クリッピングにかかる作業時間の短縮だったという。「日経スマートクリップ plus は、日経や全国紙などの新聞に掲載されている多く情報の中で、自分たちが必要とするものをスピーディーに収集する手段として非常に有用でした。現在では、経営層などとの情報共有については日経スマートクリップ plus による朝の自動配信だけで済んでいます」と村上氏は語る。今でも新聞記事の切り抜き保存は続けているというが、その作業も効率化している。「自動配信でピックアップされた記事の中から、特に重要なものだけを選んでスクラップしているので、全ての記事を閲覧してから切り抜いたり、要約してメールで配信したりする手間はなくなりましたね」。特に記事の内容をまとめる作業は行う人によって、情報の偏りや過不足が起こりやすい。大西氏は「手作業でのクリッピング作業の場合、担当者によって選ぶ記事が違ったり、要約後の内容が分かりにくくなったりしていることがありました。日経スマートクリップ plus ではキーワードによって必要な記事が自動でモレなくピックアップされ、そのうえ、原文をそのままチェックできるので便利です」と話す。

技術管理課長 村上浩氏

さらに、離れた支店にいる仲間とのコミュニケーションも取りやすくなったという。「例えば、電話で“クリッピングの２番目にある記事”と言えば、どの記事のことなのかすぐに伝わります。万が一その記事を読んでいなくても、その場でポップアップ画面を見ながら話を進めることができます。これまでのように、一度電話を切って大量の新聞記事の中から目当ての記事を探し出す必要がないので、新聞を見る時間が１日１時間程度は短縮できていると思います。また、電話をかけ直す手間も省けるので、仲間とのコミュニケーションもスムーズ。技術系の情報が共有しやすくなったと感じています」と村上氏は話す。

今後の展望

新たな研究開発には他分野に関する情報収集も重要。日経スマートクリップplusの活用で、まだ自分たちでは気付けていない有益な情報との出会いにも期待したい。

日経スマートクリップ plus の導入により、全国にいる経営層や技術員へ記事をスピーディーかつ効率的に配信することができるようになった。今後はどのようにこのサービスを活用していきたいと考えているのか、その展望を語ってもらった。「弊社は道路を造る仕事を行っていますが、自分たちの業界の情報のみにとどまらず、幅広い情報を収集し、それらを結びつけて新しいものを生み出していく必要性を感じています。そのため、今後は検索対象媒体を拡大し、雑誌や専門誌などの情報も取得したいと考えています。また、検索エンジンで AI などが上手に活用されれば、我々がまだ気づけていない有益な情報も収集できるようになるのではないかと期待しています」と石垣氏は語る。

最後に、今後導入を考えている人に向けたアドバイスを村上氏に伺った。「日経スマートクリップ plus を導入する前は、自分たちの価値観をフィルターにしてクリッピング作業を進めていたので、同じ感度で自動的に情報が収集できるのかどうか半信半疑な部分がありました。しかし、トライアルを通して必要な情報が網羅されていることを実感することができました。もし少しでも興味があれば、一度試してみることをお勧めします。結果が出れば自分自身も納得できますし、社内に反対意見があったとしても説得しやすくなるでしょう」。

日経スマートクリップ 0120-751-202
株式会社日本経済新聞社デジタルサービス法人デスク
(平日 9:30-17:30)
http://telecom.nikkei.co.jp/guide/relevance/smart/